

## CONTENTS

報告組織の概要	3	<b>社会的活動</b>	
報告範囲	4	1 環境教育・啓発	47
創業の精神、経営理念	5	2 人事	49
リコービジネス行動規範	6	3 社会貢献活動(森林保全・青少年の育成)	51
環境綱領	7	4 環境ボランティアリーダー	53
環境負荷の認識	8	5 行政や地域との活動	55
環境活動のコンセプト(コメットサークル)	9	6 安全衛生	57
環境経営の推進と2000年度の活動の概要	11	7 お客様とのコミュニケーション	60
環境行動計画と進捗状況	13	8 環境コミュニケーション	61
環境活動推進体制	15	<b>経済的活動</b>	63
環境マネジメントシステム	16	<b>環境会計</b>	65
環境経営情報システム	19	リコーグループの環境保全活動の歩み	69
<b>環境保全活動</b>		2000年度 リコーグループの社会環境活動	72
1 環境負荷分析	21	2000年度 環境報告書のアンケート結果	73
2 グリーン調達	23	第三者審査	74
3 生産(ごみゼロ)	25		
4 生産(省エネルギー)	29		
5 生産(汚染予防)	31		
6 流通	33		
7 販売	34		
8 使用	35		
9 リサイクル	39		
10 2000年度の環境負荷削減実績とレビュー	45		

## 編集方針

この報告書は、リコーグループ全体が目指す姿、目標、活動の内容、実績について、わかりやすくお伝えすることを目標に発行しています。読者対象は、環境の専門家、リコー製品をお使いいただくお客様、取引先、事業所近隣の社会、社員、NPO、学生、投資家、企業の環境担当者など、幅広い方々に読んでいただくことを念頭に編集を行いました。

リコーグループの活動を多面的にご判断いただけるよう、本年度より「GRI<sup>\*1</sup>ガイドライン」を参考に全体を構成し、名称も「社会環境報告書」に変更しました。また、環境保全活動の部分に関しては、「環境省ガイドライン<sup>\*2</sup>」を参考に編集を行いました。

活動に関する情報を誠実に記載することが重要であるという考えに基づき、罰金科料や土壌修復などに関する情報も開示しています。

環境保全活動は、自社だけでなく、社会全体の環境負荷削減に働きかけることが重要であるという認識のもとに、ともに環境保全活動を進めるリコーグループ以外の方々にも有用と考えられる情報を積極的に開示しました。

2ウェイコミュニケーションを図り、活動の内容や報告書の質を高めていくために、巻末にアンケートを挟み込みました。ぜひご意見をお聞かせください。

\*1 GRI(Global Reporting Initiative)は、持続可能な発展に関するコミュニケーションの質を高めることを目的に、環境NGOであるCERES(セリーズ)がUNEP(国連環境計画)に働きかけて設立された国際的な組織です。21世紀に存続を望まれる企業の条件として、環境的側面、社会的側面、経済的側面の3つをあげています。 <http://www.globalreporting.org/>

\*2 環境省 環境報告書ガイドライン(2000年度版) <http://www.env.go.jp/policy/report/h12-02/index.html>